

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																																									
神戸医療福祉専門学校三田校		平成9年3月26日		澤村 誠志		〒 669-1313 (住所) 兵庫県三田市福島501-85 (電話) 079-563-1222																																									
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																																									
学校法人神戸滋慶学園		平成4年1月13日		田仲 豊徳		〒 650-0001 (住所) 兵庫県神戸市中央区加納町2丁目5番1号 (電話) 078-221-8026																																									
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																																										
医療	医療専門課程	義肢装具士科4年制		—	平成23年12月22日文科科学大臣告示第170号認定																																										
学科の目的	3つの建学の理念(実学教育・人間教育・国際教育)に基づき、人の心の痛みがわかり、高い専門性・技術力を持ち、国際的に活躍できる義肢装具士の養成を目指します。																																														
認定年月日	平成26年3月31日																																														
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																																								
4年	昼間	3465	1748	682	1035	0	0																																								
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																																									
120人		90人	0人	6人	13人	19人																																									
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 評価の基準: 試験の成績は科目ごとに100点満点とし、60点以上を合格点とする。 評価の方法: 試験は各学期ごと又は科目終了時に行う。																																										
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏季:8月11日～8月17日 ■冬季:12月26日～1月5日 ■学年末:3月31日			卒業・進級条件	卒業要件: 本校所定の課程を修了し、出席日数をみだし、試験に合格した者。 進級要件: 当該年度当該年度の科目を全て履修していなければならない。																																										
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 3日以上欠席が続いた場合は、担任が保護者に連絡し、理由を把握すると共に、必要であればカウンセラーにつなぎ、原因を把握した上で、適切な対応をしている。			課外活動	■課外活動の種類 (例)学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 学友会・ボランティア・学園祭の実行委員会 ■サークル活動: 有																																										
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和4年度卒業生) 義肢装具製作施設、病院等 ■就職指導内容 就職セミナーの開催・就職対策講座・模擬面接、企業説明会の開催 ■卒業者数 21 人 ■就職希望者数 19 人 ■就職者数 19 人 ■就職率 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 90.5 % ■その他 ・進学者数: 1人 (令和4年度卒業生に関する令和5年5月1日時点の情報)			主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和4年度卒業生に関する令和5年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>義肢装具士</td> <td>②</td> <td>21人</td> <td>21人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等			資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	義肢装具士	②	21人	21人																																
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																																												
義肢装具士	②	21人	21人																																												
中途退学の現状	■中途退学者 8名 令和4年4月1日時点において、在学者85名(令和4年4月1日入学者を含む) 令和5年3月31日時点において、在学者77名(令和5年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 経済的理由、進路変更他 ■中退防止・中退者支援のための取組 クラス担任制で、定期、不定期の個人面談を行っている。また学生ひとり一人の状況変化に対し、担任だけでなく、チームで対応している。又、心のケアについては学生相談室を設置し、個別面談を行っている。経済的な理由により学業の継続が困難な学生に対しては、専門の教職員が個別に面談し、日本学生支援機構奨学金等適切な情報提供を行っている。進路変更委員会を設置しており、学生が進路変更を希望した場合、ひとり一人の学生にとって最適な進路変更を提案するようにしている。			■中退率 9%																																											
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 神戸医療福祉在校生援助奨学金:突発的な経済的事情で学業継続が困難であり、かつ本校の定める成績基準を満たしている在校生が対象。学費を上限とした額で無利子。(但し、在学中に1回のみ) ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																																														
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL																																														
当該学科のホームページURL	https://www.kmw.ac.jp/gakka/po/																																														

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

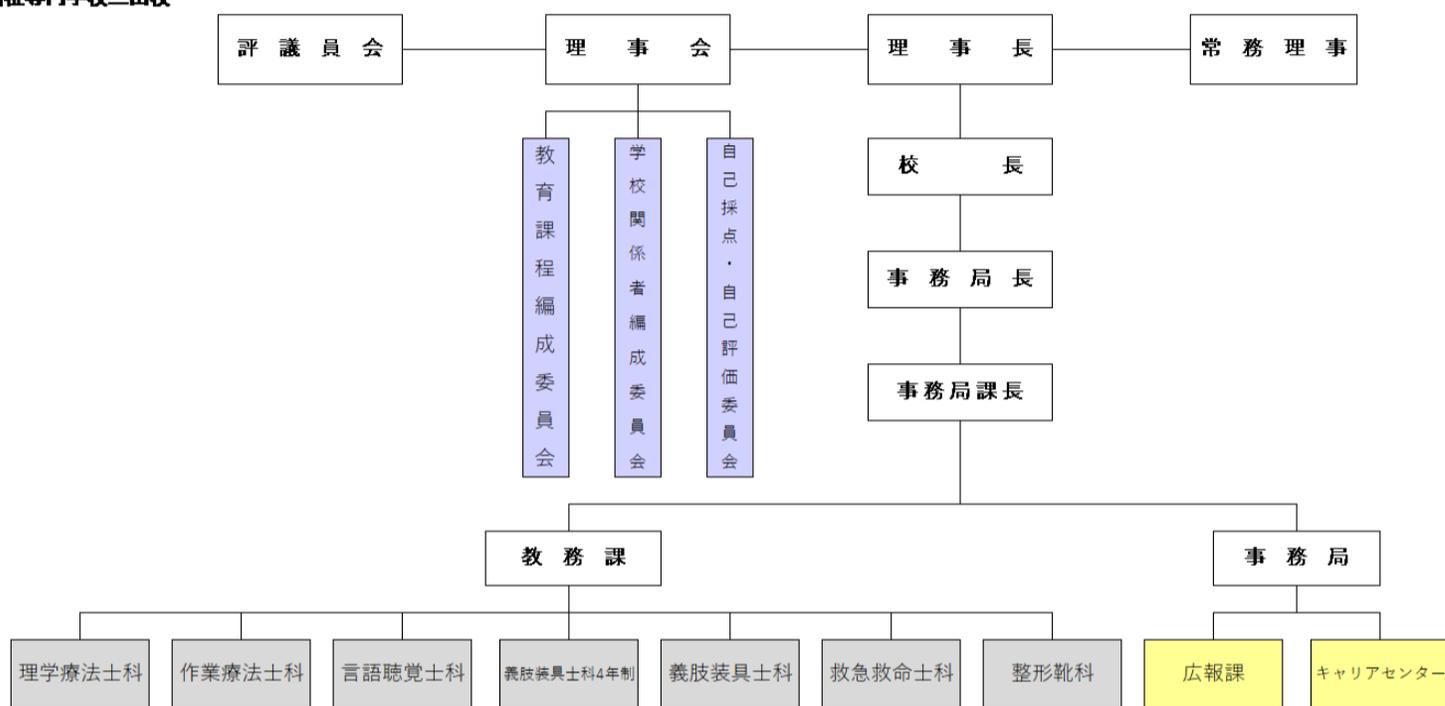
業界との連携について、学生それぞれを配置する臨床実習先の専門職を実習指導者に就任していただき、実習開始前には本校に集合していただいた上で、本校の建学の理念、学科の養成目的、臨床実習の目的を説明させていただき、臨床実習での指導をおこなっていただいています。教育課程編成委員会においても、業界関係者からの意見を、より詳細に教育内容に反映させるように見直している。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

本校の教育課程編成委員会は理事会のもとに設置しており、委員長は、委員会で出された意見を集約し理事会に報告している。カリキュラム変更等は評議員会、理事会で決議し教育内容に反映させている。

学校法人神戸滋慶学園
神戸医療福祉専門学校三田校



(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
齋藤 満知子	学校法人 神戸滋慶学園 常務理事	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	—
澤村 誠志	神戸医療福祉専門学校三田校 校長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	—
今在家 信司	神戸医療福祉専門学校三田校 事務局長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	—
大牧 良平	神戸医療福祉専門学校三田校 理学療法士科	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
山下 真吾	神戸医療福祉専門学校三田校 作業療法士科副学科長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	—
今岡 康人	神戸医療福祉専門学校三田校 言語聴覚士科学科長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	—
榎木 千代美	神戸医療福祉専門学校三田校 救急救命士科学科長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	—
佐々木 伸	神戸医療福祉専門学校三田校 義肢装具士科・義肢装具士科4年制学科長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	—
辻野 道子	神戸医療福祉専門学校三田校 整形靴科学科長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	—
正木 健一	一般社団法人 兵庫県理学療法士会 財務部部長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	①
堤 万佐子	兵庫県宝塚市向月町19番5号 医療法人 尚和会 宝塚第一病院	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
田川 和人	みきやまりハビリテーション病院 療法部主任	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③

中村 太一	医療法人社団薫楓会 緑駿病院 作業療法士室長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
大和 健一郎	さんだりハビリテーション病院 療法室長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
門脇 誠一	一般社団法人兵庫県作業療法士会 理事(副会長)	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	①
恩田 光平	兵庫県言語聴覚士会 理事	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	①
吉田 泉	社会福祉法人兵庫県社会福祉事業団 あわじ荘 支援課	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
田畑 隆太	緑駿病院 リハビリテーション室 室長 言語聴覚士	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
太田 宗夫	一般社団法人 全国救急救命士教育施設協議会 顧問	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	①
秋田 健太郎	医療法人沖縄徳洲会 神戸徳洲会病院 救急救命士科	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
川端 雅生	一般社団法人 日本義肢協会 近畿支部 研修委員	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	①
石原 栄治	公益社団法人 日本義肢装具士協会 副会長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	①
植田 幸一	橋本義肢製作 株式会社 第2装具課 課長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
藤原 誠文	株式会社 アルフィット 代表取締役	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
栗林 薫	日本整形靴技術協会 顧問	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	①
眞殿 浩之	川村義肢株式会社 製造部 製靴科 主任技師	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「－」を記載してください。)

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (6月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年6月25日 15:00～17:00

第2回 令和5年2月18日 14:10～16:10

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

学生の卒業後の進路に対するモチベーション向上のために、入学前教育、導入教育の見直しを行う。また、同窓会が実施している卒業後研修会での症例発表会や学会等への参加をより積極的に促す。人間関係学・チーム医療論になかで、企業からの講師を招いて講義を行った。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

患者様への義肢装具の処方等の見学を通じて、その疾患の障害像を理解させる。疾患の障害像理解を経て、学習レベルに応じた適切な指導のもとで義肢装具士による行為の実践を経験させる。「品質」と「納入期限」の両方に関心をもたせ、学習レベルに応じて必要な行動を促す。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

- ① 義肢装具士を見学をし、現場で特別講義を受けた後、レポートを提出し指導を受ける。
- ② 義肢装具士の業務の現場で体験実習をし、レポート作成後指導者からの指導を受ける。
- ③ 学習した内容を日誌に記入する。臨床実習指導者の指導を受ける。
- ④ 1週間を終えて最も興味深い症例や製品、製作工程などについてまとめ考察を行い指導者からの確認と指導を受ける。
- ⑤ ケースレポートを作成し、臨床実習で学んだ内容をまとめ、考察を行い、指導者の確認、指導後振り返り学習を行う。
- ⑥ 臨床実習報告会で、学んだ内容に関して報告を行い、学内で共有する。企業指導者もお招きして意見を頂く。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
臨床実習Ⅰ・Ⅱ	臨床実習において、学生は義肢装具士による具体的な行為が行われている環境、すなわち「臨床現場」に身をおき、臨床現場そのものの雰囲気を経験し、義肢装具士による行為の見学を中心として行いながら、学習レベルに応じた指導のもとで義肢装具士の行為の実践を経験し、専門的な知識と技術を養う。また、臨床体験を通じて専門職の建設的な考え方を受け入れて、それを発展させる経験をしたり、さまざまな人々に対する適切なコミュニケーションを養う。	株式会社 富金原義肢、川村義肢株式会社、株式会社 大井製作所、株式会社 洛北義肢、株式会社 澤村義肢製作所(106施設)

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

学園の定める教員研修規程において、教員の授業内容・教育技法の改善並びにクラス運営方法の向上、マネジメント能力を含む指導力の向上を研修の目的と定めています。また、教員の専門知識・技術の向上の為にそれぞれの専門の学会や業界の研修会への積極的参加を促しています。学科にて教員全てが研修を受けるように、計画している。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 第28回日本義肢装具士協会学術大会(岡山)	連携企業等: 公益社団法人日本義肢装具士協会
期間: 令和4年7月9日(土)、10日(日)	対象: 義肢装具士
内容: 義肢装具分野に関する日本義肢装具士協会主催の定例学術集会	
研修名: 第38回日本義肢装具学会学術大会(新潟)	連携企業等: 一般社団法人日本義肢装具学会
期間: 令和4年10月8日(土)、9日(日)	対象: 医療・福祉・保健・教育
内容: 義肢装具分野に関する日本義肢装具学会主催の定例学術集会	
研修名: MAS大腿義足セミナー	連携企業等: 三田校
期間: 令和4年10月10日(月・祝)～12日(水)	対象: 在校生・卒業生・義肢装具士
内容: 義肢装具に関する専門知識と技術の勉強会	
研修名: 日本義肢装具士研修委員会西日本支部セミナー(オンライン)	連携企業等: 公益社団法人日本義肢装具士協会
期間: 令和4年11月6日(日)	対象: 義肢装具士
内容: 義肢装具分野に関する日本義肢装具士協会西日本支部主催のセミナー	
研修名: 日本義肢装具士研修委員会全国セミナー(オンライン)	連携企業等: 公益社団法人日本義肢装具士協会
期間: 令和5年3月6日(月)	対象: 義肢装具士
内容: 義肢装具分野に関する日本義肢装具士協会研修委員会主催のセミナー	

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 義肢装具分科会(オンライン)	連携企業等: 三田校・北海道ハイテック
期間: 令和4年8月20日(土)	対象: 義肢装具士、靴科教員
内容: 教員のFD研修会	
研修名: 神戸滋慶教職員研修	連携企業等: 一般財団法人 滋慶教育科学研究所
期間: 令和4年12月	対象: 教員
内容: 教員のFD研修会	
研修名: ISPO認定義肢装具士試験	連携企業等: 三田校
期間: 令和5年2月	対象: 義肢装具士科4年制卒業生
内容: ISPO認定義肢装具士試験	

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	第29回日本義肢装具士協会学術大会(仙台)	連携企業等:	公益社団法人日本義肢装具士協会
期間:	令和5年7月14日(金)、15日(土)	対象:	義肢装具士
内容:	義肢装具分野に関する日本義肢装具士協会主催の定例学術集会		
研修名:	シェヌーブレイス側弯症用装具セミナー	連携企業等:	三田校
期間:	令和5年8月4日(金)~6日(日)	対象:	在校生・卒業生・義肢装具士
内容:	義肢装具に関する専門知識と技術の勉強会		
研修名:	第39回日本義肢装具学会学術大会(岡山)	連携企業等:	一般社団法人日本義肢装具学会
期間:	令和5年10月28日(土)、29日(日)	対象:	医療・福祉・保健・教育
内容:	義肢装具分野に関する日本義肢装具学会主催の定例学術集会		
研修名:	日本義肢装具士研修委員会西日本支部セミナー(オンライン)	連携企業等:	公益社団法人日本義肢装具士協会
期間:	令和5年11月	対象:	義肢装具士
内容:	義肢装具分野に関する日本義肢装具士協会西日本支部主催のセミナー		
研修名:	日本義肢装具士研修委員会全国セミナー(オンライン)	連携企業等:	公益社団法人日本義肢装具士協会
期間:	令和6年3月	対象:	義肢装具士
内容:	義肢装具分野に関する日本義肢装具士協会研修委員会主催のセミナー		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	義肢装具分科会(於仙台)	連携企業等:	三田校・北海道ハイテック
期間:	令和5年7月15日(土)	対象:	義肢装具士、靴科教員
内容:	教員のFD研修会		
研修名:	神戸滋慶教職員研修	連携企業等:	一般財団法人 滋慶教育科学研究所
期間:	令和5年12月	対象:	教員
内容:	教員のFD研修会		
研修名:	ISPO認定義肢装具士試験	連携企業等:	三田校
期間:	令和6年2月	対象:	義肢装具士科4年制卒業生
内容:	ISPO認定義肢装具士試験		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

卒業生、保護者代表、近隣関係者、高校関係者、業界関係者により構成される学校関係者評価委員会を組織し、この委員会が、学校教職員が行った自己点検・自己評価の内容を審議・評価することを通し、学校運営の改善に生かすことを方針としています。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・目標
(2) 学校運営	(2) 学校運営
(3) 教育活動	(3) 教育活動
(4) 学修成果	(4) 学修成果
(5) 学生支援	(5) 学生支援
(6) 教育環境	(6) 教育環境
(7) 学生の受入れ募集	(7) 学生の受入れ募集
(8) 財務	(8) 財務
(9) 法令等の遵守	(9) 法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	(10) 社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	(11) 国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況
 中途退学率の改善が必要との指摘から、メンタル面、学習習慣や学習能力面についての学生サポートアンケートを活用し、問題の早期発見や担任による補講契約や面談を実施している。また、カウンセリングやキャリア教育に携わる教職員に対するサポートや研修も実施している。特に理学療法士科については、地域との連携授業を多数取り入れていることについて、今後も今以上の取り組みを期待され、2021年度の理学療法演習に取り組むようにした。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
中村 元樹	理学療法士科卒業生・平島病院 リハビリテーション科	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	卒業生
幸田 佳子	言語聴覚士科3年生の保護者	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	保護者代表
川崎 万紀代	学校法人百合学院中学校・高等学校 校長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	高等学校関係者
田中 加代子	特定非営利活動法人言語障害者の社会参加を支援する会しゃべろーよ 地域活動支援センター トークゆうゆう 所長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	企業等委員
正木 健一	兵庫県理学療法士会 財務部 部長/株式会社ヌーベルバーグ 介護ショップ連	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	企業等委員
川端 雅生	一般社団法人日本義肢協会 近畿支部 研修委員/株川端技術所 代表取締役	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
 (例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) 広報誌等の刊行物・その他()
 URL: <https://www.kmw.ac.jp/gakko/joho/>
 公表時期: 令和5年6月30日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校で毎年作成している事業計画の実行方針では目標(カリキュラムの検証、中途退学防止、卒業後の離職防止等)を具現化するため、学校関係者評価委員会・教育課程編成委員会の委員の方からの意見をもとに、実行計画を作成している。企業等への具体的な情報提供方法としては、講師会議やホームページを通じて、教育活動その他の学科運営の情報に関する情報の提供を行っています。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	建学の理念、校長名、所在地、連絡先、教育目標、学校の沿革
(2) 各学科等の教育	入学者に関する受け入れ方針及び入学者数、収容定員、在学学生数、教科目標、教科課程、進級・卒業の要件、資格、検定、実績、卒業生数、卒業後の進路、各学科のシラバス
(3) 教職員	教職員数、組織図
(4) キャリア教育・実践的職業教育	教育システム、実習・実技等の取組、就職支援の取組
(5) 様々な教育活動・教育環境	学年暦、学校行事の取組状況、設備紹介
(6) 学生の生活支援	学生支援の取組
(7) 学生納付金・修学支援	学費、学費サポート
(8) 学校の財務	資金収支計算書、事業活動収支計算書、財産目録、貸借対照表、監査報告書
(9) 学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果、学校関係者評価委員会議事録
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) 広報誌等の刊行物・その他()
 URL: <https://www.kmw.ac.jp/gakko/joho/>
 公表時期: 令和4年6月30日

授業科目等の概要

(医療専門課程義肢装具士科4年制)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			物理・数学	義肢装具のデザインや研究、開発の基礎となるバイオメカニクスや数理統計学の基盤となる物理、数学の基礎のレビューを行う。	1後	15	1	○			○			○	
2	○			バイオメカニクス	人の身体の構造や運動を例に挙げながら、バイオメカニクスの理解に必要な基本的な演算や力学の基礎について学ぶ。	1後	15	1	○			○			○	
3	○			数理統計学	実験研究や調査研究において用いられる統計手法についての基本的な考えと基礎的な解析手法について学ぶ。	3前	30	2	○			○			○	
4	○			心理学	人間理解のために必要となる知覚・人格形成、欲求・記憶等についての心理学の基本的理論及び探求方法を学ぶ。	1後	15	1	○			○			○	
5	○			人間関係学	社会活動に必要とされるコミュニケーションのスキルを高め、円滑な人間関係の構築の仕方について学ぶ。	1前	15	1	○			○			○	
6	○			介護技術論	介護の理念および技術を学び、人と人の関係を力学的な視点で考えます。	1後	15	1	○			○		○		
7	○			英会話	国際公用語である英語でのコミュニケーションの楽しさを知り、基礎英会話力を養い、併せて英語文献(基礎)の講読演習を行う。	1前	30	2	○			○			○	
8	○			医学用語	英語の専門用語を身につける。	1後	30	2	○			○		○		
9	○			英書講読Ⅰ	英会話に引き続き、生活や職場の場面での英語によるコミュニケーションを習い、併せて英語文献の講読演習を行う。	2前	30	2	○			○		○		
10	○			英書講読Ⅱ	「導入」、「本論」、「まとめ」など、英語でプレゼンテーションを行う場合の基本構成やその各構成部分の作り方について学ぶ。また各構成部分に重点を置いたミニプレゼンテーションを行う。	3前	30	2	○			○		○		
11	○			英語表現法Ⅰ	義肢装具士のさまざまな側面(養成課程、必要とされる知識、技術、最近の研究成果など)についてグループで調査し、英語でプレゼンテーションを行う。	3後	15	1	○			○			○	

40	○		電子工学	義肢装具を始めとする福祉用具に組み込まれている様々な電気回路について学び、特に筋電義手、電子制御膝継手、機能的電気刺激についての理解を深める。	4後	15	1	○		○			○	○
41	○		文献調査法	義肢装具関連の科学論文をレビューする演習を通して、文献の読み方・調査・検索方法について学ぶ。	2後	30	2	○		○			○	
42	○		義肢装具研究法Ⅱ	義肢装具の関連領域について与えられた課題に沿って、短期のプロジェクトとして文献調査、研究、発表及び論文作成の方法を学ぶ。	3後	30	1		○	○			○	
43	○		義肢装具概論	それぞれの分野で活躍している義肢装具士の講演の聴講を通じて義肢装具士の職業像・将来像を獲得する。	1通	15	1	○		○			○	○
44	○		義肢装具基本工作技術	義肢装具の基本的な工作に関する知識と工作法について学ぶ。	1前	195	7	△		○	○		○	○
45	○		装具製作実習	装具製作に必要な製作理論と技術を学ぶ。	1後	105	3	△		○	○		○	○
46	○		装具実習Ⅰ	体幹装具の製作に必要な採型・採寸の基本的理論と方法、及びその適合の理論と実際について学ぶ。また、体幹の病態の生体力学的根拠に基づく製作理論と技術について学ぶ。	2前	105	3	△		○	○		○	○
47	○		装具実習Ⅱ	神経筋疾患に関連する装具の製作に必要な採型・採寸の基本的理論と方法、及びその適合の理論と実際について学ぶ。また、神経筋疾患の病態の生体力学的根拠に基づく製作理論と技術について学ぶ。	2後	150	4	△		○	○		○	○
48	○		装具実習Ⅲ	足底装具の製作に必要な採型・採寸の基本的理論と方法、及びその適合の理論と実際について学ぶ。また、足部の病態の生体力学的根拠に基づく製作理論と技術について学ぶ。	2前	60	2	△		○	○		○	○
49	○		装具実習Ⅳ	上肢装具の製作に必要な採型・採寸の基本的理論と方法、及びその適合の理論と実際について学ぶ。また、上肢の病態の生体力学的根拠に基づく製作理論と技術について学ぶ。	3前	75	3	△		○	○		○	○
50	○		義肢実習Ⅰ-1	PTB下腿義足の製作に必要な採型・採寸の基本的理論と方法、及びその適合の理論と実際について学ぶ。また、下腿切断の病態の生体力学的根拠に基づく製作理論と技術について学ぶ。	1後	105	3	△		○	○		○	○
51	○		整形靴技術Ⅰ	靴底や足底装具の補正に必要な採型・採寸の基本的理論と方法、及びその適合の理論と実際について学ぶ。また、靴の基本的な構造について学び、靴選びや靴調整の方法も学ぶ。	3後	60	2	△		○	○		○	○
52	○		特殊義肢学	股義足、膝義足、サイム義足の義肢の製作に必要な採型・採寸の基本的理論と方法、および適合の理論と実際について学ぶ。筋電義手の構成要素と訓練方法について学ぶ。筋電位と電極位置についての判別方法の義手の調整技術を習得する。	4前	45	2	○	△		○		○	○

53	○		特殊装具学	側彎症や骨端症など小児特有の疾患に対応する装具療法とその装具の名称や分類、構造を理解する。また、装具の製作に必要な採型・採寸方法、適合の理論と実際について学ぶ。側彎症装具のデザイン、採型適合技術について習得する。	4通	45	2	○	△	○	○	○	○
54	○		装具実習V	骨折治療用の装具の製作に必要な採型・採寸の基本的理論と方法、及びその適合の理論と実際について学ぶ。また、骨折の生体力学的根拠に基づく製作理論と技術について学ぶ。	4後	75	3	△		○	○	○	○
55	○		特定装具実習I	実際の片麻痺の障害を持った方々にお越しいただき、それぞれの身体評価、障害評価により、その病態とバイオメカニクス理論に基づいたデザインの装具を製作し、適合を評価する。	3前	60	2	△		○	○	○	○
56	○		特定装具実習II	実際の脳性麻痺の障害を持った方々にお越しいただき、それぞれの身体評価、障害評価により、その病態とバイオメカニクス理論に基づいたデザインの装具を製作し、適合を評価する。	3後	60	2	△		○	○	○	○
57	○		整形靴技術II	整形靴技術に基づくアップーデザインの理論を学び、様々な靴のデザインの作図方法、カッティングパターンの制作、皮革の裁断、縫製の技術を習得する。	4後	105	3	△		○	○	○	○
58	○		車いす・座位保持装置実習	車いす・座位保持装置の製作に必要な採型・採寸の基本的理論と方法、及びその適合の理論と実際について学ぶ。また、姿勢変形の病態の生体力学的根拠に基づく製作理論について学ぶ。デザインの応じた採型手技、適合技術を習得する。	3前	105	3	△		○	○	○	○
59	○		義肢実習I-2	PTB下腿義足以外の下腿義足製作に必要な採型・採寸の基本的理論と方法、及びその適合の理論と実際について学ぶ。また、下腿切断の病態の生体力学的根拠に基づく製作理論と技術について学ぶ。	2後	90	3	△		○	○	○	○
60	○		義肢実習II	義手の製作に必要な採型・採寸の基本的理論と方法、及びその適合の理論と実際について学ぶ。また、上肢切断の病態の生体力学的根拠に基づく製作理論と技術について学ぶ。	3前	105	3	△		○	○	○	○
61	○		義肢実習III	大腿義足の製作に必要な採型・採寸の基本的理論と方法、及びその適合の理論と実際について学ぶ。また、大腿切断の病態の生体力学的根拠に基づく製作理論について学ぶ。	2後	105	3	△		○	○	○	○
62	○		義肢実習IV	大腿義足の製作に必要な採型・採寸の基本的理論と方法、及びその適合の理論と実際について学ぶ。また、大腿切断の病態の生体力学的根拠に基づく製作理論と技術について学ぶ。	3後	60	2	△		○	○	○	○
63	○		装具療法演習	装具療法の対象となる疾患の病理、発生機序、治療方法、具体的な治療方法について、セミナー形式の演習によって学習する。	2通	60	2			○	○	○	○
64	○		義肢演習	義肢系科目の集大成として、客観的臨床能力評価テスト(OSCE)を実施する。限られた時間内での、義肢の為の障害評価、採型そして適合の作業での技術、知識、態度を評価する。	4前	90	3			○	○	○	○

65	○		装具演習	装具系科目の集大成として、客観的臨床能力評価テスト（OSCE）を実施する。限られた時間内での、装具の為の障害評価、採型そして適合の作業での技術、知識、態度を評価する。	4通	90	3		○	○	○						
66	○		卒業研究Ⅰ	義肢装具の関連領域について自主的な研究を行うことを通じて、文献調査、研究、発表及び論文作成の方法を学ぶ。特に研究テーマ探索に力点を置く。	3通	30	1		○	○	○						
67	○		卒業研究Ⅱ	卒業研究Ⅰを踏まえて製作された実験計画に基づいた研究を遂行し、発表及び論文作成を行う。	4前	90	3		○	○	○						
68	○		総合義肢装具学	義肢装具士国家試験の試験科目（臨床医学大要、義肢装具工学、義肢装具材料学・材料力学、義肢装具生体力学、義肢装具採型・採寸学、義肢装具適合学）に関連する知識を総合的に理解する。	4通	30	1		○	○	○						
69	○		評価実習	義肢装具士としての患者、障害者の方への身体評価、採型・採寸、適合の作業を見学を中心として参加し、症例報告の作成を行う。	3後	45	1			○	○	○	○				
70	○		臨床実習Ⅰ	義肢装具士として基礎的な実践能力を身につけ、医療における義肢装具の重要性を理解し、かつ、患者への適切な対応について学習し、チーム医療の一員として責任と役割を自覚する。	2後	90	2			○	○	○	○				
71	○		臨床実習Ⅱ	義肢装具士としての学生それぞれの職業像や身につけたい専門性を鑑みて、より深くそれぞれの現場での知識・技術を深めるだけでなく、身構え・心構えも習得する。	4前	90	2			○	○	○	○				
合計						71	科目		140 単位（単位時間）								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： 本校所定の課程を修了し、出席日数をみたし、試験に合格すること。		1 学年の学期区分	2 期
履修方法： 当該年度の科目を全て履修していなければならない。		1 学期の授業期間	20 週

（留意事項）

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。